

誰もが安心
して暮らせ
る町づくり
をめざして

名北福祉会 広報誌

2022 1 Jan No.56

みんなの夢

2022年1月1日発行（年3回）

発行所／社会福祉法人名北福祉会

発行人／黒川 富子

〒462-0807 名古屋市北区御成通 3-20-4 TEL:052-910-3066 FAX:912-5188 HP:<http://meihoku-fukushi.org/>



デイサービス町南の利用者さんが作成しました

謹んで新春をお祝い申し上げます

理事長 黒川 富子

皆様におかれましては、すこやかに新年をお迎
えのこととお喜び申し上げます。

そして、名北福祉会にご支援・ご協力を賜り、
心より厚く御礼申し上げます。

昨年にも新型コロナウイルスの感染防止が課題と
なった年でした。オンラインの活用、密にならな
い工夫をし、とりくみをすすめてまいりました。

さて、みんなの願いが詰まった、「みなみ町福
祉センター」が、ついに2023年1月オープン
の運びとなりました。高齢者のグループホーム、
小規模多機能事業所（2023年4月開所予定）、
地域交流スペース、「茶食ばちぼち」が入ります。
また、「友の家」の隣地に重症心身障害者の方
にも対応できる障害者グループホームも開所に向
け、準備をすすめています。

憲法を守り、平和で豊かな住みよい街づくりを
すすめ福祉の充実をめざします。

本年もどうぞよろしく願っています。

みなみ町福祉センターを建設します!!

めいほく保育園の東隣の土地の

活用について、高齢者施設と地域の福祉要求に応える地域交流の拠点となる「地域福祉センター」をめざし、「建設委員会ニュース」でお知らせしすすめてきました。

年度当初、名古屋市が発表した計画には、予定していた小規模特別養護老人ホームの公募がなかったため再検討し、グループホームの建設をめざしました。

グループホームの公募に申請を出し、結果を待っていました。が、念願がなつて、名古屋市から、決定の通知が届きました。たくさんの方の申請がありドキドキしながらの結果待ちでしたが、「上飯田の地域に、高齢者の終の住処を作る夢」が、実現することになりました。

みなみ町福祉センターに入るほかの事業は

●「地域交流スペース」は、

2023年1月開所予定!

地域の取り組みに活用してもらう貸しスペース。無料塾や、子ども食堂、地域の方の集いの場、趣味や講座の集まりなど、地域で豊かな生活がおくれることに役立っています。

●「茶食ぼちぼち」現在ある「茶食ぼちぼち」が入ります。

●「小規模多機能型居宅介護事業所」

2023年4月開所!

◇「デイサービス東町」は小規模多機能開所に移行し、閉所します。現在運営中の「デイサービス東町」〈10名定員〉ですが、お泊りもできる小規模多機能型居宅事業所のスタートにあわせ、デイサービス東町は閉所し、移行していきます。

★「グループホーム

（認知症対応型共同生活介護）」って?

認知症の方を対象にした入居施設で、可能な限り自立した生活を送ることができるよう、食事や入浴など日常生活の支援を受けながら、介護スタッフと共に共同生活を送ります。看取りまでできる介護施設です。

★「小規模多機能（小規模多機能型居宅介護）」って?

施設への「通い」を中心に、短期間の「宿泊」や自宅への「訪問」を組み合わせて、生活支援や機能訓練をひとつの事業所で行う在宅介護サービスです。

みなみ町福祉センター

建物は中庭がめいほく保育園とつながっています

2階

- 小規模多機能型居宅介護施設 (登録制・定員 25名)
- グループホーム 1ユニット (9名)

1階

- 地域交流スペース
- 茶食ぼちぼち
- 法人本部



3階

- グループホーム 2ユニット (9名×2ユニット)

4階 (一部)

- 多目的室



子どもと高齢者、日々の中でふれあいを

めいほく保育園とみなみ町福祉センターがテラスでつながります。保育園の子どもたちが中庭で遊ぶ姿や高齢者との温かいまなざしなど何気ない日常の交流がもたらしていると思います。

地域懇談会から



地域のみなさんの声を反映した「地域交流スペースにしたい」と地域懇談会を行ってきました。



「住み慣れた家、地域で暮らしたい」「友達といつでも会いたい」といったあたりまえの望みをかなえることができる事業所をめざしていきたいと思えます。

高齢部がんばります!

「学習支援を行っている。ここができたら、ぜひ使わせてほしい」「昼間、手伝えることは手伝うよ」「町内も独居の高齢者が多い。気軽に集まれる場ができたらいいい」「カフェの調理スペースがもう少し広いといい」など、たくさんの意見をいただきました。

昨今、介護保険事業には、多くの企業が参入し競争の中で多種多様な施設が増えていきます。また、コロナ禍により、人とつながることも少なくなってきました。

他事業所の「グループホーム」から学ぶ

高齢部では、昨年10月にNPO法人「和」の「じぶんち」の認知症介護指導者の大場さんを招き学習会を行いました。

事業所「じぶんち」は、和やかに安心してのんびり過ごすことができることを大切に取組まれています。また、できることは自分でできるように、職員は「待つ」という姿勢を大切にして支援をされており、実践から学ぶものが沢山ありました。地域のつながりを大切にしたグループホームにしていきたいと思っています。



介護スタッフ大募集

福祉センターで行う、新たな2つの高齢事業に向けて、介護スタッフを大募集しています。

地域に介護職員募集のポスターの掲示、チラシで募集を呼びかけています。法人内職員さんや利用者さんなど、つながり等あらゆる方法を生かして、人材確保をすすめていきます。

周りに介護の仕事に興味のある方がみえたら、ぜひ、ご紹介ください。



安心して暮らせる街づくりを

緊急な保育要望

に込めて

めいほく保育園 24時間緊急一時保育事業

めいほく保育園では2016年10月に24時間緊急一時保育事業を開始して5年が過ぎました。

保護者の就労、通院、入院など緊急に家庭保育が困難な場合の対応として、24時間365日対応しています。

昨年の春、コロナ禍で立ち合い出産に上の子を病院に連れていけないという理由で利用される家庭が複数ありました。深夜や休日も含めて担当同士連携しながらの受け入れとなりました。

申し込みで一番多いのは就労での利用です。日中は、保育園に行っているけど夕方から夜間の時間での保育が必要だったり、夏休みや



土曜日など幼稚園がお休みだから等、様々な理由があります。毎月利用できる3回を深夜勤務の仕事でお泊りする子もいます。保護者の急な病気での通院や入院での相談も増えてきています。

「緊急24時間があつてよかった」と、子育てしている方たちが困った時には頼りにされるような存在として、いつでもどんな場合でも柔軟に対応できるように、さらに充実させていきたいと思っています。

わかるって楽しい

やだ保育園 やだっこ学びのひろば

「やだっこ学びのひろば」は、小学生を対象に、学校の勉強や宿題でわからないことなどボランティアアさんにサポートしてもらい、開

いている学びの場です。月2回第1、3の金曜日の午後3〜5時に行っています。「学校の勉強でわからないことが復習できる機会があると安心」「卒園児の中には外国に



ルーツのある子もいて、日本語の学習のサポートがあるといいな」そ



うした思いの中で、地域で学習支援をして



いるおたすけマン杉本さんの力を借りて、4年前にスタートしました。休校や短縮授業など、小学生もコロナ禍の影響を大きく受けています。宿題のドリルやわからない所を勉強しています。わかった時、やり終えた時、「あー疲れた」と言いながらすっきりした顔。勉強だけでなく、漢字や数字の学習ゲームをしたり、おにぎりなど食べてお腹も充電しています。保育園ができることはわずかですが、就学後の子どもたちの生活にも目をむけていき続けたいと思います。



**利用しやすい
保育室に
北病院
病児・病後児保育所「にじ」**

「にじ」は開所して7年になりました。利用していたごどもたちも大きくなるにつれ、病気をしなくなっています。先日、よく利用されていた子のお母さんと子どもさんが顔をのぞかせてくれました。久しぶりに受診し「懐かしい」と保育士に声をかけてくれたのです。すっかり大きくなった子に再会できたこと、保護者の方がわざわざ挨拶くださったことがとてもうれしい出来事でした。

2020年度より利用料が半額ほどに引き下がり、今までより利用しやすくなりました。しかし、



新型コロナウイルス感染症拡大により、自粛の影響が病児保育を利用する子どもの数が大幅に減りました。

2021年度に入り前年度に全く流行らなかったRSウイルスが猛威を振るい、どの園でもたくさんの子どもたちが罹患しました。どうしても休めない保護者にとつて『にじ』があつてよかったと声をかけていただいています。

これからも保護者にもごどもたちにも安心できる病児保育室でありたいと思います。



**地域の親子が
集えます
なえしる保育園
子育て支援センター**

なえしる保育園に支援センターを開所して11年になります。この2年はコロナに悩まされていますが、お母さんや子どもたちの居場所の一つでありたいと感じています。

外に出ていくのも心配な毎日ですが、お母さんたちも検温や手洗い等にも、とても気をくばって参加されます。

園庭開放や保健センターの保健師さんのお話を聞く会や手作りおもちゃをつくったりといったイベントもしています。近くの公園での『出張子育て支援センター』をしました。少しでもつながりを持つていけるようにしています。

また、保育園を外から覗いている赤ちゃん連れのお母さんたちには「支援センターにどうぞ」と声をかけたりする中で新しいなかまも増えてきました。保育園の周り



にも新しい家ができ、若い世代が増えてきています。こんな時だからこそつながり、地域の子育てセンターとしての役割を感じています。

**地域の方が集える
お茶会
デイサービス町南
めいほく町南の家**

町南のお茶会は地域の方が気軽に訪ねられる場所になりたいと、17年前デイサービス町南開所と同時に始まりました。開所前に施設

の前にお住いのTさん（現在利用者さん）に相談すると、当時の民生委員のMさんを紹介いただき、近所の方に声をかけていただけたのです。

あらたな地域で事業を進めていく不安もありましたが、地域の方と少しだけつながれたことでほっとしたことを今でも覚えています。

それから17年間、毎月1回（1・8月はお休み）、午後の時間に5〜7名ほどあつまり、コーヒーを飲みながら、お喋りや体操、歌を歌



うこともあります。参加者の方から笑いヨガを教えてもらったことも。昔の話になると「名古屋城が燃えた時は明るくてね」「矢田川が氾濫して橋が流されてね」「自衛隊はもと騎馬隊だね」など盛り上がります。身体のことや困りごとや介護の話をするこも。開所当時から近所に配布している「町南だより」を見て、お茶会にお菓子を届けてくれた方もいます。最近はコロナ禍で開催できないも時もありますが、これからも地域の方が寄っていただけるささやかなお茶会を続けていきたいです。

上飯田南町の 焼き芋交流会

地域貢献部

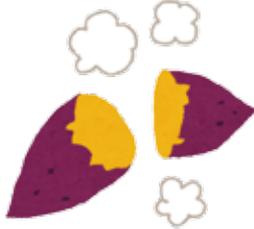
みなみ町福祉センター建設に向け地域貢献部が中心になり、昨年11月6日にめいほく保育園の隣の上飯田南公園で焼き芋交流会を開催しました。

町内にチラシを掲示した事や、久しぶりのとりくみに、近所の方



保育園の方、子ども達、親子連れ、高齢部の利用者等たくさんの方でにぎわいました。用意したさつまいもがすべてなくなりました。朝から焼き芋を焼いて下さったOBの応援もありました。天気にも恵まれ、青空の下

みんなで食べるホカホカの焼き芋交流会は、楽しいとりくみになりました。



お試しグループホーム 地域生活支援拠点事業 町北ホームゆうやけ

2020年4月にスタートした町北ホームゆうやけでは、地域生活支援拠点事業を行っています。この事業は、地域で暮らしている障害のある人たちの高齢化や障害の重度化、親亡き後に備えるための生活支援を地域全体で支えるための仕組みの一つです。具体的には、ご家族の外出や体調不良などでご家庭での支援に困った時に「お助けショートステイ」を利用していただいたり、親元から離れて地域で暮らすことへ向けてグルー





プホームの体験をする「お試しグループホーム」を利用していただくことができます。

名古屋市内には現在9カ所の地域生活支援拠点事業所があり、町北ホームゆうやけは、今年度は守山区の一部と東区にお住まいの方が対象となっています。

この事業を始めて2年目ですが、様々な状況を抱えて地域の中で困っている障害のある方とそのご家族がたくさんみえることを実感しています。まだまだ力不足で利用の相談があっても受け入れできないこともありませんが、その受け止めを少しでも多くしていけるように努力していきたいと思えます。

みんなの楽しみな場所
今はフードステーション

わいわい子ども食堂

地域の3つの団体（北医療生活協同組合ファミリーサポートプロジェクト・名古屋北法律事務所ホウネット・名北福祉会）が共同して2015年11月から毎月第一水曜日の夜に北医療生協すまいるハートビル2階で「わいわい子ども食堂」が始まりました。子ども食堂は貧困家庭支援と関わっていますが「誰でも参加できる食堂」「楽しい居場所」として、だんだんと増えて、毎回100人位の参加となりました。現在はコロナ禍で子ども食堂は中止。月1回日曜日のフードス



みんなの
フードステーション

食料品無料配布します

無料生活相談同時開催

日時：2月13日(日) 準備で次第配布

午前10時～ 整理券を配布します。予定数になり次第終了です。
※近隣の方に迷惑になりますので、早くから並ぶはお控え下さい。

場所：北病院 北側 (雨天決行)

当日の天気や感染症の状況により予告なく時間変更される場合があります
お越しいただいても整理券がなくなっている場合もあります

お車で越しの皆さんのために、ドライブスルーも併設していましたが、周囲の住民の皆様へのご迷惑やご利用くださる皆様の安全を考慮し、ドライブスルーは中止することになりました。

お車でのお越しは
ご遠慮くださいますようお願いいたします。

お問合せ：080-3636-5151



主催：わいわい子ども食堂プロジェクト
構成団体：北医療生活協同組合、社会福祉法人 名北福祉会、暮らしと法律を結ぶホウネット



テーションに変更。食材(米野菜パンなど)150袋があつという間に配布完了です。高齢者の方が多くなりました。寄付いただける方やボランティアの方も増え、新たな輪が広がっています。

地域みんなが気軽に
集える居場所に
茶食ほちほち

茶食ほちほち

「茶食ほちほち」は、名北福祉会が運営する喫茶店です。障がい者、高齢者の働く場にしたと始めました。現在地域やOBの方が、モーニングやランチの常連さんとなり、にぎわっています。お客さんの趣味の写真や日本画、切り絵やちぎり絵等を展示しています。季節ごとに展示物が変わり、お客さんを楽しませていきます。

認知症カフェ等の開催、金曜日の夜は、料理好きなOBの方で居酒屋になったりと集いの場となっています。



コロナ禍ですが、各分野工夫して学んでいます



防災学習会を終えて

保育部 保健担当者会

保育部の保健担当者会の中で「今の防災対策で子どもたちの命を守ることはできるのか」と現状に不安を持つ声が上がりました。そこで、防災に詳しく、保育現場に活かせる講演をされている野津牧先生を講師に迎え、保育部職員対象にリモートと対面両方で学習会を行いました。

災害は想定外のことばかり、そんな状況下であってもその時その場にいる職員の判断が生死を分けると言われます。「子どもたちの命を守る」という責任の大きさを感ぜながら日々どう過ごさか考えさせられる時間となりました。どんな時も職員ひとり一人がその時最良の判断ができるように、防災マ



ニユアルの周知、避難訓練の実施・反省・改善を反復することが必要と学びました。そして、職員の真剣な訓練姿勢を通し子どもたち自ら身を守る力を育てていきたいと思えました。また災害時は地域連携も必要不可欠です。防災力を高め、皆の命を守る園でありたいと強く思いました。

生活支援サービスの担い手を育てる

第一回

高齢者日常生活支援研修

昨年11月 守山区生涯学習センターで講座を開催しました。

高齢者日常生活支援研修は、「掃除・買物・洗濯」などの日常生活で支援を必要としている高齢者の方々に支援する「生活支援サービス」の担い手として活動していただく方を養成するための研修です。参加費は無料（テキスト資料代500円）・介護の基礎を学ぶ3日間のみの研修です。

今回、7名の方が受講され、介護保険制度・認知症・高齢者の栄養・老化・生活援助の基礎知識・技術などについて学びました。この研修には、現場見学の時間もあ



り、デイサービス（町南）、小規模多機能型居宅介護（町南の家）を見学しました。

全員に修了証が発行され、今後は名古屋市の指定を受けた事業所において「生活支援サービス」の担い手として仕事ができます。また、修了された方の中で引き続き12月より介護職員初任者研修講座を受講し、より幅広く、専門知識を学んでいる方もみえます。次回研修は未定ですが、継続講座として考えていきます。



障がい部会は、各施設長、主任（総勢20名前）後が、月に1回、集まり、現状報告、検討事項、確認事項などを行っています。

コロナ禍以前は、対面での会議でしたが、障がい部は、施設数も多く、日中施設、暮らしの場施設と、勤務時間もバラバラな職員たちと一緒に同じ時間に会するのは、難しい状況がありました。コロナ禍となり、リモートでの会議になってからは、現場に入ってから参加でも開催時間にあまり遅れることなく、参加できるようになり、少しの時間でも会議への参加ができるようになったりなど、WEB会議の利点を生かせるようになり、上手に活用していきま

毎月WEB会議

障がい部会
施設長・主任会議

ハンドブック研修で 理解を深める

障がい部会
新人職員研修

今年度も入職された職員を対象にハンドブック研修を行っています。

日中施設職員、暮らしの場職員、計9名が月に1回、全9回の研修を受講しました。内容は多岐にわたっており、「名北福祉会で働くこと」「障害のある方への支援」など、現場が必要となるべく基本的な理解を深めるための内容となっています。今年度第4回目となり、制度変更もあるため内容更新し、研修を行っています。



研修動画で学習

高齢部
研修報告会

高齢部ではコロナ禍により外部研修への参加が難しくなってきたため、研修動画の配信サービスを契約しました。IDとパスワードがあればスマホで視聴でき、学習したい時に好きな時間で観る事が出来ます。

この研修動画をさらに活用できないかと考え、昨年より「研修報告会」を実施しています。毎月1回開かれる職員会議で担当職員が研修動画の内容を発表するという取り組みです。就業時間内に動画の視聴、発表内容をまとめる時間を設け、自身の言葉で研修内容を発表してもらいます。人に伝えるには自身の理解度も高くなければならないし、どうすれば相手に伝わるかを考えなければいけません。多くの事を学ぶことができる機会になっています。

社会福祉協議会 リモート研修

高齢部

高齢部では研修の機会が失われない様に、名古屋市社会福祉協議会主催のリモート研修に積極的に参加しています。研修のあり方も大きく変わり、事業所にいながら研修に参加できる事はメリットに感じています。一方リモートでのグループワーク等はまだまだ慣れていない面もあり、相手の表情や空気



感を読み取りにくい為、難しさも感じています。研修内容としては「社会人としてのマナー」といった基礎的な事から、「薬学基礎知識研修」といった医学的なものまで幅広くあり、職員に希望をとりながら毎月受講しています。

初めてのハイブリッド方式での開催
第53回 全国保育団体合同研究集会 in 広島

7月31日(土)と8月1日(日)の両日、広島県立総合体育館を会場にライブ配信され、各地の参加者はオンライン視聴で参加しました。

全国から8187名、愛知からは1029名と開催地広島に迫る参加がありました。名北福祉会の各職場からも正職はもちろん、パート職員の参加もありました。録画配信もあったため、いろんなコンテンツを何度でも視聴でき、大きな学びとなりました。

「全職員で同じ画面を共有して」

めだか保育園

めだか保育園では正規職員15名が全員参加し、学びを共有しました。

コロナ禍に、リモートも利用しながら全国の保育関係者が集えたことは、明日への力に繋がりました。

保育においても制限されることが多く、できないこともあったけれど、できないからやらないのではなく、できることがあるからこそ、どんなことをしてあげられるのか、やりたいのかを考えることこそが大切な時間だったとわかりました。



目の前のことではいっばいになりがちですが、コロナ後の保育に繋げるために、今こそ職員が保護者と日常の子どもの姿を語りあったり、お便りなどで伝えていくことも大切だと思いました。

「合研の歴史とつながる日々の大切さを学んで」

西部医療センター くさのみ保育所

くさのみ保育所ではパート職員2名を含む11名が参加しました。

新人職員は、合研が自分の幼少期のころからずっと全国規模で保育者がつながつて保育を支えていることを実感していました。

また、合研での学びから、保育のまとめをより深めることができたり、重大事故にならないように、あらためて、保育の見直しができたりしました。そして、コロナ禍の中で、今では当たり前前になった感染予防は人と人のつながりをなくしていくことだ

と改めて感じました。

大変な時ですが、どうつながっていくのかを工夫・手立てを考え、生活にも続いていくと思うので、今のつながりを大事にしていこうと思っています。

つながろう語り合おう 作り出そう一人ひとりの「いのち」
第44回 きょうせれん全国大会

2021年10月29日、第44回きょうせれん全国大会がオンラインで開催されました。昨年の和歌山大会はコロナで中止になったため2年ぶりの全国大会でした。

今回は「つながろう、語り合おう、作り出そう一人ひとりの「いのち」輝く社会を」をテーマに1万1千人以上の仲間や親、職員などが参加し、過去最高の参加人数とのことでした。

内容は各県の代表会場で繋ぐ列島リレーメッセージ・O×クイズ・

高齢部より ～署名のお礼～

「介護保険制度の抜本的転換を求める請願署名」へのご協力ありがとうございました。2021年12月時点で加盟団体である老福連に8925筆の署名が集まっています。

社会保障制度の拡充をめざして、これからも署名活動へのご協力をよろしくお願い致します。



保育・学童保育制度の抜本的改善を求める請願書」にご協力ありがとうございました。

長引くコロナ禍の中で、社会を支える保育所の役割は一層大切なものとしての重要性が再認識されています。しかし、保育所の職員配置や施設基準、保育士の処遇は何ら改善されていません。その状況を改善していくために、皆さんから送られてきた署名は大きな力になります。ありがとうございました。まだ間に合いますので、お手元に残っていましたら返送をお願いいたします。



きょうされん 第45次
国会請願署名・募金運動
全国キャンペーン
 2021年12月～2022年4月

青野 隆夫 / 田邊 直
 ラルシユがなの家 (長野県)

高合 亜子 / 松岡 直
 ぽんとスペースあまーち (兵庫県)

竹下 雅子
 市民団体
 長中会館社会スマイル (福岡県)

あたりまえに
 はたけまき
 えらべえ
 しらすを

障害者権利条約を地域のすみずみに
 障害のある人びとを支える
 制度づくりのための
 署名・募金にご協力ください。

わたしたちも応援しています。

障害福祉についての法制度拡充を求める請願
 きょうされん署名にご協力ください！

新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきたものの、コロナ危機の下では、障害のある人や家族、事業所に対して様々な問題が明らかになっていきます。きょうされんが結成当初からとりこんできた署名・募金活動は、今年45回目を数えます。長年にわたる署名活動が障がいのある方の労働やくらしを支えてきました。いよいよ第45次国会請願・署名運動キャンペーンスタートです！

※今年も4月までの署名の取り組みとなります。
 封筒（切手不要）に入れ、返信お願いいたします。